

大阪母子医療センター 臨床評価指標《基本情報》

基本情報	平成26年度 数値	平成27年度 数値	平成28年度 数値	単位	収集期間	定 義	備 考
入 院							
稼働病床数	349	336	327	床	平成28年		4月1日時点で実際に使用している入院ベッド数です。
延べ患者数	108,242	107,252	109,982	人	平成28年		延べ患者数とは、毎日24時現在の在院患者数にその日の退院患者数を加えた数を合計した数です。
1日平均入院患者数	297	294	274	人	平成28年	延べ患者数／365	
新入院患者数	9,370	9,518	9,833	人	平成28年	期間中に新たに入院した患者数	
退院患者数	9,246	9,507	9,838	人	平成28年	期間中の退院患者数	一年間に退院した患者さんの数です。
年齢階層別退院患者数（※1）	別紙1参照	別紙1参照	別紙1参照		平成28年	※退院時点（又は入院時点）の年令で集計する。	入院患者さんの年齢の特徴を示します。
主要疾患別患者数（※2）	別紙2参照	別紙2参照	別紙2参照		平成28年	※原則としてICD3桁分類の上位20疾患とする。	どのような病気を扱う病院かを示しています。
疾病分類別患者数（※3）	別紙3参照	別紙3参照	別紙3参照		平成28年		
病床利用率	85.0	87.5	91.9	%	平成28年	延べ患者数／（稼働病床数×365）×100	病床数に対してどれだけの患者さんが利用したかを表し、1年間平均した病床の利用度を示します。
平均在院日数	10.6	11.3	10.2	日	平成28年	延べ患者数／（新入院患者数+退院患者数）÷2	急性疾患を取り扱うのか、慢性疾患を取り扱うのか、病院の特徴を示す数字です。
病床回転率	29.7	28.3	30.1	回	平成28年	（病床利用率／100）×365／平均在院日数	空きベッドの数も考慮して計算された、入院ベッドの利用効率を示します。急性疾患あるいは慢性疾患という特徴を示します。
入院外来比率	1:1.6	1:1.6	1:1.7		平成28年	延べ入院患者数：延べ外来患者数	入院加療を中心とする病院か、外来診療を中心とするか、という指標です。
退院患者中の褥創（Ⅱ度以上）の院内発生率	0.2	0.0	0.0	%	平成28年	NPUAP分類においてStageⅡもしくはDESIGN評価表においてd2以上の褥瘡を有する患者／退院患者	
退院計画立案率	33.3	52.18	68.2	%	平成28年	退院療養計画書作成数／退院患者数×100	退院療養計画書が作成されている割合です。
退院サマリー完成率	98.7	97.9	94.4	%	平成28年	2週間以内にサマリーを記載した件数／退院患者数×100（平成28年1-12月退院分）	

基本情報	平成26年度 数値	平成27年度 数値	平成28年度 数値	単位	収集期間	定 義	備 考
外来							
新外来患者数	16,314	16,382	16,592	人	平成28年	初診料を算定した外来患者数＋他科の初診患者数（入院中の外来初診を含む）	
延べ患者数（健診等を含む）	175,662	175,838	181,621	人	平成28年	初診料と外来診療料を算定した延べ患者数に加え、妊婦健診・産褥期健診、子育てサポート外来等の来院者数を含む。	
延べ患者数	127,481	129,911	135,502	人	平成28年	初診料と外来診療料を算定した延べ患者数	
平均通院回数	10.8	10.7	10.9	回	平成28年	延べ外来患者数／新外来患者数	
1日平均外来患者数	719.9	726.6	747.0	人	平成28年	延べ患者数／診療日数	
紹介率	88.6	89.2	92.5	%	平成28年	（紹介患者数+救急患者数）／初診患者数	外来患者さんのうち、紹介されてこられる方の割合です。普段のかかりつけというような一次医療が中心か、専門的な病院か、という指標となります。
逆紹介率	36.8	39.5	39.9	%	平成28年	逆紹介患者数／初診患者数	逆にこの病院から他病院への紹介の割合です。
救急車搬送患者数	605	611	695	人	平成28年	・救急車で搬送された全ての患者で再診患者、外泊患者等を含む。 ・医療機関に所属する救急自動車（ドクターカー：自院、他院を含む。）で搬送された患者も含む。	
初診予約率	88.8	86.9	88.6	%	平成28年	予約があった初診患者数／初診患者数×100	外来の予約制がどの程度浸透しているかを示します。

基本情報	平成26年度 数値	平成27年度 数値	平成28年度 数値	単位	収集期間	定 義	備 考
死 亡							
死亡退院数	42	33	36	人	平成28年		この病院で一年間に死亡退院された患者の数です。
粗死亡率	0.5	0.4	0.4	%	平成28年	死亡退院患者数／退院患者数×100	この病院に入院した患者さんの死亡の割合です。高度な医療を提供する病院では重症の患者さんを取り扱うことも多いので、この数字は高くなります。
精死亡率	0.3	0.2	0.3	%	平成28年	(死亡退院患者数－入院後48時間以内死亡)／退院患者数×100	入院して48時間以内の死亡は、病院内での診療を反映しないことも多いので、この死亡を除いた上での死亡率です。しかしながら、上記と同様に、高度な医療を提供する病院では重症の患者さんが増え、死亡率が高くなる傾向もあるため、必ずしも病院の診療レベルは反映しません。
剖検数	5	6	7	件	平成28年	死亡退院患者のうち病理解剖実施件数	
剖検率	11.9	18.2	19.4	%	平成28年	剖検数／死亡退院患者数×100	「剖検」とは病理学的な解剖のことで、死亡した患者さんの死亡原因を詳しく調べる検査です。剖検数が多い病院は死亡原因解明のためにしっかりと取り組んでいるということも示しますが、ご遺族にとって複雑な思いを喚起させる検査でもあり、解釈には注意が必要です。

手 術							
施設基準に掲げる手術件数(※4)	別紙4参照	別紙4参照	別紙4参照	件	平成28年	医科点数表第2表第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術の件数(平成28年1月から12月までの件数)	
入院手術件数	4,093	4,700	4,921	件	平成28年		
日帰り手術患者数	473	492	536	人	平成28年	※ここでの日帰り手術患者数は、入院基本料を算定しており、手術施行した患者で在院日数1日の患者数をいう。	
全身麻酔件数	3,361	3,573	3,803	件	平成28年		
硬膜外併用脊髄くも膜下麻酔	21	21	13	件	平成28年		
硬膜外麻酔	163	221	220	件	平成28年		
脊髄くも膜下麻酔	494	434	448	件	平成28年		
伝達麻酔	1	2	4	件	平成28年		
その他の麻酔	0	3	9	件	平成28年		

医療安全							
医療事故発生件数	26	27	35	件	平成28年度	公表基準による医療事故(レベル3b以上)の年間件数 レベル3b: 濃厚な処置や治療を要した事例 レベル4: 患者に永続的な障害が残った事例 レベル5: 死亡(原疾患の自然経過によるものを除く。)	医療事故をしっかりと把握し、その年間での件数を示しています。

基本情報	平成26年度 数値	平成27年度 数値	平成28年度 数値	単位	収集期間	定 義	備 考
その他							
研修医受入れ人数	1.6	1.9	1.3	人	平成28年度	各月1日における人数の平均 <協力型臨床研修病院>	病院として、医師の教育に積極的に取り組んでいるかを示しています。
レジデント受入れ人数	34	36	30	人	平成28年度	1年間に所属したレジデント医師の数	
指導医数	120	111	124	人	平成28年4月 現在	※指導医は、臨床研修病院の基準にあるように、5年以上の臨床経験を有するものであって、プライマリケアを中心とした指導を行うことができる経験及び能力を有している者※臨床経験5年以上	4月1日時点の指導医数を算出しています。
外国人施設見学・研修	54	31	40	人	平成28年度	1年間に施設見学および研修を行った外国人の数	
医療相談件数	9,267	10,303	10,567	件	平成28年	医療相談室等で受けた相談件数(医療相談の専任者が実施する場合を含む)	社会財政面での患者さんの支援の体制を示しています。
医療相談件数のうち医療ソーシャルワーカーが受けた件数	9,267	10,303	10,567	件	平成28年	医療相談室等で医療ソーシャルワーカーが受けた相談件数	
セカンドオピニオン件数	49	42	49	件	平成28年	新規相談件数	
患者対看護職員数	7対1	7対1	7対1		平成28年度	看護体制(一般病棟)	看護体制の充実度を示しています。
認定看護師数	6	6	8	人	平成28年度	日本看護協会が定める認定看護師の有資格者数	新生児集中ケア認定看護師を2名と感染管理認定看護師2名、皮膚・排泄ケア認定看護師1名、小児救急看護認定看護師1名を配置しております。
専門看護師数	4	4	4	人	平成28年度	日本看護協会が定める専門看護師の有資格者数	母性看護専門看護師を1名と小児看護専門看護師を3名配置しております。
継続看護の実施件数	469	561	666	人	平成28年	在宅療養指導料算定(延)患者数(外来のみ)	在宅での療養支援に積極的に取り組んでいるかを示しますが、これも病院の扱う疾患の特徴にも左右されます。
院外処方箋率	70.4	78.8	80.0	%	平成28年	院内処方箋枚数／外来処方箋枚数×100	医薬分業に積極的に取り組んでいるかを示していますが、まれな疾患にしか使わない薬を多く処方される病院もあります。
診療情報の開示件数	35	41	46	件	平成28年	年間の総開示件数	
治験新規契約件数	18	22	21	件	平成28年度	※「治験契約件数」はプロトコル数。また、新規契約と以前からの契約件数(複数年度契約の場合)を合計した数	医療の標準化に積極的に取り組んでいるかを示していますが、高度な医療を提供する病院では適用が難しい場合も多くあります。
クリニカルパス種類数	189	174	220	件	平成28年	電子カルテに登録されているパスの数	
クリニカルパス適用率	45.8	48.9	52.3	%	平成28年	クリニカルパス適用患者数／新入院患者数×100	医療の標準化に積極的に取り組んでいるかを示していますが、高度な医療を提供する病院では適用が難しい場合も多くあります。
放射線治療件数	355	663	471	件	平成28年		

基本情報	平成26年度 数値	平成27年度 数値	平成28年度 数値	単位	収集期間	定 義	備 考
CT撮影件数	4,611	5,074	5,134	件	平成28年		
MRI撮影件数	2,121	2,532	2,548	件	平成28年		
病院職員のインフルエンザワクチン接種率	89.7	91.5	88.5	%	平成28年度	インフルエンザワクチン予防接種者数／職員数(非常勤含む)×100	職員数は、インフルエンザワクチンの予防接種の申し込み受付を行う8月1日現在の職員数で算出しています。
職員の健診受診率	99.7	99.0	96.6	%	平成28年度	事業所検診の受診数／検診対象者数(常勤職員)×100	職員数は、12月5日現在の職員数で算出しています。

※1 年齢階層別退院患者数

(平成28年)

年齢階層	退院患者数	(うち死亡患者数)
28日未満	1,475	16
1歳未満	838	2
10歳未満	3,749	10
20歳未満	1,317	5
30歳未満	844	3
40歳未満	1,282	0
50歳未満	330	0
60歳未満	3	0
70歳未満	0	0
80歳未満	0	0
80歳以上	0	0

※入院時年齢により集計した

※2 主要疾患別患者数(上位20位)

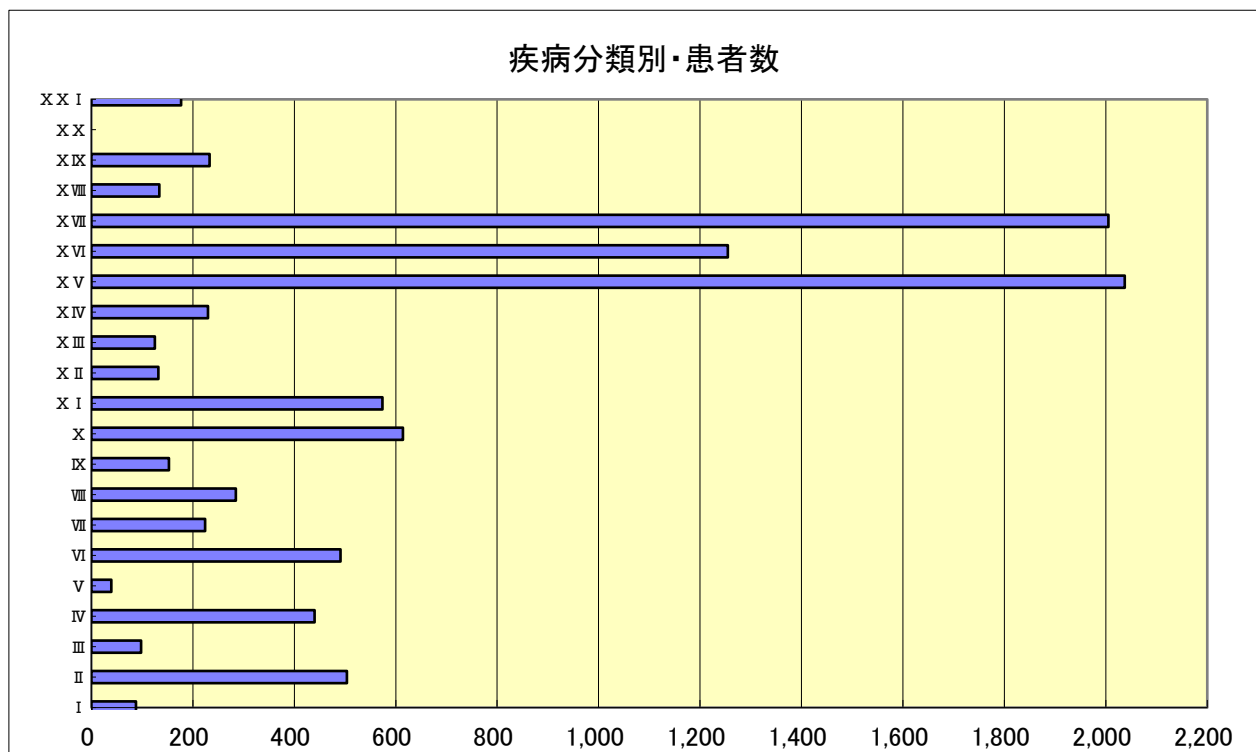
(平成28年)

ICD3桁分類	疾患名	患者数
O80	単胎自然分娩	352
P07	妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害	306
P03	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	271
O34	既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	215
Q21	心(臓)中隔の先天奇形	210
H65	非化膿性中耳炎	205
O47	偽陣痛	201
E34	その他の内分泌障害	187
Q37	唇裂を伴う口蓋裂	176
J96	呼吸不全	168
G40	てんかん	162
K40	そけい(鼠径)ヘルニア	156
O62	娩出力の異常	152
O42	前期破水	151
G93	脳のその他の障害	144
Q20	心臓の房室及び結合部の先天奇形	139
H50	その他の斜視	139
J35	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	138
D22	メラニン細胞性母斑	136
P00	母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児	131

※3 疾病分類別患者数・平均在院日数

(平成28年)

	分類	患者数	平均在院日数
I	感染症及び寄生虫症(A00-B99)	88	9.4
II	新生物(C00-D48)	504	18.0
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害(D50-D89)	98	23.8
IV	内分泌、栄養および代謝疾患(E00-E90)	440	5.6
V	精神および行動の障害(F00-F99)	39	16.3
VI	神経系の疾患(G00-G99)	491	9.0
VII	眼および付属器の疾患(H00-H59)	224	5.4
VIII	耳および乳様突起の疾患(H60-H95)	285	2.9
IX	循環系の疾患(I00-I99)	153	12.7
X	呼吸系の疾患(J00-J99)	614	9.3
X I	消化系の疾患(K00-K93)	574	6.0
X II	皮膚および皮下組織の疾患(L00-L99)	132	4.3
X III	筋骨格系および結合組織の疾患(M00-M99)	125	15.5
X IV	尿路生殖系の疾患(N00-N99)	230	8.9
X V	妊娠、分娩および産褥(O00-O99)	2,037	10.4
X VI	周産期に発生した主要病態(P00-P96)	1,255	14.8
X VII	先天奇形、変形、および染色体異常(Q00-Q99)	2,005	12.4
X VIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見(R00-R99)	134	11.1
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響(S00-T98)	233	9.3
X X	傷病および死亡の外因(V01-Y98)	0	0.0
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用(Z00-Z99)	177	2.8



※4 当センターにおいて実施した施設基準に係る手術件数(平成28年)

1. 区分1に分類される手術

		手術の件数	
ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	24	頭蓋内腫瘍(腫瘍)摘出術、頭蓋内腫瘍摘出術
イ	黄斑下手術等	10	増殖性硝子体網膜症手術、眼窩内腫瘍摘出術(表在性)、硝子体茎頭微鏡下離断術、眼筋移動術
ウ	鼓室形成手術等	38	鼓室形成手術
エ	肺悪性腫瘍手術等	3	肺切除術、肺悪性腫瘍手術
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	10	

2. 区分2に分類される手術

ア	靱帯断裂形成手術等	0	靱帯断裂形成手術
イ	水頭症手術等	62	水頭症手術、髄液シャント抜去術
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0	
エ	尿道形成手術等	78	尿道下裂形成術、尿道形成手術、陰茎形成術
オ	角膜移植術	0	
カ	肝切除術等	3	肝切除術
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	2	造脛術、脛閉鎖症術

3. 区分3に分類される手術

ア	上顎骨形成術等	10	
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	0	
ウ	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0	
エ	母指化手術等	5	母指化手術
オ	内反足手術等	9	内反足手術
カ	食道切除再建術等	0	
キ	同種死体腎移植術等	3	

4. 区分4に分類される手術

		181	腹腔鏡下鎖肛手術、腹腔鏡下先天性巨大結腸症手術、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術、腹腔鏡下腎摘出術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下虫垂切除術、腹腔鏡下腹腔内停留精巣陰嚢内固定術、腹腔鏡下腎部分切除術、腹腔鏡下脾摘出術、腹腔鏡下試験開腹術、腹腔鏡下後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下胃局所切除術、腹腔鏡下噴門形成術、腹腔鏡下結腸切除術
--	--	-----	---

5. その他の区分

ア	人工関節置換術	0	
イ	乳児外科施設基準対象手術	50	先天性食道閉鎖症根治術、先天性胆道閉鎖症手術、単心室症手術、胸腹裂孔ヘルニア手術、大血管転位症手術、鎖肛手術
ウ	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	7	
エ	冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術	65	弁形成術、弁置換術、大動脈弁下狭窄切除術、肺動脈狭窄症手術、肺静脈還流異常症手術、肺静脈形成術、心房中隔欠損作成術、心房中隔欠損閉鎖術、心室中隔欠損閉鎖術、ファロー四徴症手術、両大血管右室起始症手術、大血管転位症手術、総動脈幹症手術、不整脈手術
オ	経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術	0	経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術

当センターにおける年間分娩件数等

平成28年1月～12月	1,583件
産科医師数：16名	助産師数：27名(母性中央部のみ)